

経済・文化で群馬が注目



フル生産を続ける富士重工業

群馬経済は自動車を中心とした製造業がけん引し、景気回復の力強さが増している。日銀前橋支店が発表した9月の県内企業の景況感を示す業況判断D.I.は、全産業で「プラス10と前回6月調査から3点改善。D.I.が2桁になるのは、金融危機前の2008年3月の「プラス11」以来、実に5年ぶりだ。7年後の東京オリンピック開催が決まり、観光資源を生かした波及効果も見込める。経済、文化の両面で群馬に寄せられる期待は大きい。



群馬県などは旧官営富岡製糸場など4資産の世界文化遺産登録を目指す

自転車を新たな誘客ツールに
(今年初めて開催した自転車競技「棟名山ヒルクライム」)

景気回復の兆し 地域活性化へ



群馬大学の重粒子線治療施設で稼働するシンクロトロン加速器

群馬が持つ観光資源の活用も欠かせない。なかでも14年の世界文化遺産登録を目指す「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、水面下で登録に向かう動きが活発だ。日本の近代化を支えた産業遺産の歴史的価値を伝えるイベントも多数開かれている。

9月25日、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の諮問機関「国際記念物遺跡会議(イコモス)」の調査員が2日間でわたりて現地を調査した。富岡製糸場(群馬県富岡市)のほか、構成遺産の田島弥平旧宅(同伊勢崎市)など4資産を見察した。

イコモスは今回の調査を踏まえて14年4~5月にも登録にふさわしいかをユネスコに勧告。6月にカーチルの首都ドームで開かれる世界遺産委員会で登録の可否を審査する。地元商店街は登録を待ち望む声が高まり、温泉といった群馬の観光地を合わせた経済波及効果を期待できる。

新政権が誕生して約10ヶ月。経済政策「アベノミクス」によって円安や株高など明るい材料が目立ちはじめた。それでも実体経済の恩恵はまだら模様であり、官民の知恵の結集が欠かせない。

がん治療で世界的な産業集積を指向する動きが本格的に始まった。政府は9月13日、群馬県の「がん治療技術地域活性化総合特区」を指定した。世界でも数少ない群馬大学の重粒子線の治療施設を核として、医療機関や大学、県内外の企業が手を組む。先端の医療技術や専門人材を育て、薬事法の規制緩和や財政支援をデコに機器や技術の世界展開につなげる構想だ。